

プリントによって個に応じた学習をさせれば、生徒は意欲的に学習にとりくみ、学力が定着するであろう。

<仮説のための理論>

(1) 「自己評価」

毎時間、学習の理解度及び学習態度について生徒に自己評価を行わせ、学習意欲を高めさせる。毎授業終了後に提出させ、教師が点検し、全体あるいは個の実態を把握し、必要があれば、個別指導をするなど、教師と生徒間のコミュニケーションを図る。

(2) 「個に応じた学習」

学習活動の中で、着実に学習意欲を高め、学力を高めていくためには、バンデュエラが言っているように、はじめから「遠い目標」を強いるのではなく、生徒一人一人に、それぞれの近しい目標」を達成させ、その結果や努力に十分な評価を与え、成就感を味わわせることにより、自己効力(自分の能力に対する確信または期待)を高めることが大切である。

(3) 「学習プリント」

毎時間学習プリントを用意し、能力に応じて、ABCコースのいずれかを選ばせて、個に応じた学習をさせることによって、どの生徒にも「できた」「わかった」という成就感を味わわせ自信を持たせる。

- Aコース
…基本的な問題
- Bコース
…標準的な問題
- Cコース
…複雑な問題

なお、ABコースにはつまずきの原因を解消するための補充問題もふくめる。

3. 計画

- (1) 方法 一群法
- (2) 対象 1年C組 33名
- (3) 組織 個人研究
- (4) 日程

① 事前研究の段階 ② 検証の段階

- ア、研究計画の樹立(6月) ア、教材研究(8月)
- イ、実態調査(6月) イ、指導計画の作成(9月)
- ウ、研究主題の設定(6月) ウ、事前テストの実施(10月)
- エ、文献研究(6~7月) エ、検証授業(10月)
- オ、仮説の設定(6~7月) オ、事後、把持テストの実施(11, 12月)

③ 整理の段階

- ア、データの処理(11~12月)
- イ、結果の分析(12月)
- ウ、研究のまとめと反省(12月)
- エ、研究報告書の作成(12月)

4. 概要と考察

(1) 研究の経過

① 検証までの準備

- ア、研究対象生徒の知能検査、学力検査、数学の学習に対する意識調査の結果の考
- イ、単元の指導計画の立案
 - 目標分析
 - 単位時間における基礎、基本の分析
- ウ、事前テスト・事後テスト・把持テスト意識調査用紙の作成
- エ、自己評価票と学習プリント作成

<表4>
<表5>

<表4>

自己評価票		0 1 2 悪い ぶつう 良い						氏名 _____			
時	学習日	学習内容	学 習 態 度			つまずき	コース	理解度	確認テスト	質問または感想	検
			ほぼ強く解く	発表する	説明をきく						
1	9/10	等式の意味	0 1 2 _ _	0 1 2 _ _	0 1 2 _ _		ABC	0 1 2 _ _	0 1 2 _ _		
2	/	方程式の意味	0 1 2 _ _	0 1 2 _ _	0 1 2 _ _		ABC	0 1 2 _ _	0 1 2 _ _		

<表5>

学習プリント (No.7)		ねらい		かっこのある方程式を解くことができるようにする。			
<Aコース>		<Bコース>		<Cコース>			
(補充問題) ○ 正負の数 文字式の計算 (1) $-3+5$ (2) $-2-4$ (3) $3x+x$ (4) $5x-2x$		○ 移項のしかた (1) $5x+2=3x+3$ (2) $2x-3=4x-6$ (3) $3x-7=5-4x$		○ 等式の性質(4) (1) $5x=10$ (2) $-3x=21$ (3) $2x=-7$		○ かっこのはずしかた (1) $2(x-1)=6x+10$ (2) $5-3(x-2)=-7$ (3) $3x=8-2(7-2x)$ (4) $5(x-3)-8(-2+x)=-5$ (5) $3=-4x-(x-8)$ (6) $0=3(2x-1)-2(4x-5)$	
(1) $2(x+3)=x+10$ (2) $3(x-3)=x+1$ (3) $4(x-2)=2x+1$		(1) $2(x+3)=x+12$ (2) $3(2x-1)=2x+6$ (3) $7x-3(x-1)=15$					